

# 【小中学校 国語】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①【 】ている。</p> <p>※単元に位置付けた<b>指導事項の文言</b>を基本とする。【 】内は指導事項の文言。 ※指導事項の一部を用いる場合もある。</p> <p>※単元の時間数や児童生徒の実態から身に付けさせたい事項を、それぞれ1~2事項選ぶ。(①、②とする) ※選んだ指導事項の中から、特に身に付けさせたい事項を選ぶ。(→主体態の《 B 》に入る)</p> <p>【知技①】</p> <p>【知技②】</p>	<p>①(領域名:〇〇こと)において、【 】ている。</p> <p>【思判表①】</p> <p>【思判表②】</p> <p>※太線については、特に身に付けさせたい指導事項 ※それぞれの②については、評価規準として設けないこともある。</p>	<p>〇 進んで、《 A 》 【 】し、《 B 》 学習の見通しをもって、《 C 》 【 】している。《 D 》</p> <p>A:粘り強さ→「積極的に」、「進んで」、「粘り強く」等 B:知識・技能、思考・判断・表現において、<b>特に粘り強さを発揮してほしい指導事項</b> C:自らの学習の調整→「見通しをもって」、「学習課題に沿って」、「今までの学習を生かして」等 D:当該単元の具体的な<b>言語活動</b></p> <p>【主体態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強さ</li> <li>自らの学習の調整</li> </ul>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

◇教材文やモデル文等と出会い、単元の学習に興味や関心をもつ。

#### 【単元の課題】

〈必要感のある言語活動〉

◇既習事項や実生活の体験等を想起しながらゴールの姿に向かうための大体の流れをつかむ。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

#### 単位時間

#### 【めあてをつかむ】

- ◇各単位時間のめあてに対して、個で考える。
- ◇ペアや少人数での交流活動を行い、互いの考えを伝え合う。
- ◇学級全体で、各グループの交流活動で出された意見や考えについて確認し合い、新たな気づきをもつ。

#### 【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

#### 3 単元の学習を振り返る。

◇単元の課題について、学ぶ前と後との変容を自覚するとともに、今までの学習のポイントを学級全体で共有する。

◇学んだことを、他の学習や日常生活でどのように活用できるかを考える(一般化)。

#### 単元全体の振り返り

#### <例> 評価の位置付け

※指導事項が、【知技①】、【思判表①・②】で、特に身に付けさせたい指導事項が【思判表①】の場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>「つかむ過程」では、【単元の課題】に対しての児童の実態をつかむ。(【知技】【思判表】については既習事項の定着状況を確認することもある。)</p>		
※1 【知技①】	【思判表①】	【主体態】 見通し
<b>単位時間</b>		
<p>※各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって変わります。 ※学習状況を見取る時間は指導計画によります。</p>		
	【思判表①】	【主体態】 学習状況の確認 問題の追究
【知技①】	単位時間	
	単位時間	
	※3 【思判表②】 <sup>記</sup>	
※2 【知技①】 <sup>記</sup>	【思判表①】 <sup>記</sup>	
<p>※1で、学びの前の児童生徒の力を見取り、各単位時間で指導・支援を行い、※2で、記録に残す評価をする。「追究する過程」で行うこともある。(【知技】【思判表】同様)</p>		
		【主体態】 <sup>記</sup> 学習状況の確認 単元での学び

★はばプランⅡで示す「問題解決的な学習」の単元構想でないと、評価規準に示す学習状況の評価がしにくくなります。**必要感のある言語活動の設定**が主体的・対話的で深い学びの授業の鍵を握ります。

#### 「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取り、必要に応じて、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す)

= 記

- ・目標の実現状況が児童生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・国語科の知識・技能、思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなることが考えられます。
- ・※3のように、既習事項の定着の確認など、「まとめる過程」でない場面でも記録に残す場合もあります。

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇について、(見学・調査・地図・年表など)で調べ、必要な情報を集め、読み取り、〇〇を理解している。</p> <p><b>【知技①】</b> 情報を集め、読み取る<b>技能</b> + <b>具体的な事実に関する知識</b></p>	<p>①〇〇などに着目して、問いを見出し、〇〇について考え表現している。</p> <p><b>【思判表①】</b> 問いを見出す</p> <p><b>【思判表①】</b> ～〇〇(社会的事象の様子)など</p>	<p>①～について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p><b>【主体態①】</b> 見通し</p> <p><b>【主体態①】</b> 学習状況の確認 問題の追究</p>
<p>②調べたことを(白地図・図表・年表など)や文などにまとめ、◎◎を理解している。</p> <p><b>【知技②】</b> 情報をまとめる<b>技能</b> ↓ <b>概念に関する知識</b></p>	<p>②AとBを(比較・関連付け、総合など)して、△△を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。</p> <p><b>【思判表②】</b> △△(社会的事象の特色や意味)など</p> <p><b>【思判表②】</b> 選択・判断、社会の発展</p>	<p>②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ※選択・判断しようとする。 ※社会の発展を多角的に考えようとしている。</p> <p><b>【主体態②】</b> 生活の在り方を選択・判断、社会の発展について考えようとする 「社会的態度」</p>

点線の【思判表②】【態度②】は、単元において、「社会への関わり方を選択・判断する」「社会の発展を考える」などの学習活動が設定されない場合は、記述されません。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

- ◇社会的事象と出合い、疑問や調べたいことをもつ。
- ◇単元の課題を立てる。

##### 【単元の課題】

〈単元の目標に到達するための大きな問い〉

- ◇単元の課題について予想し、整理する。
- ◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

##### 単位時間

##### 【めあて】

- ◇追究内容、方法を確認する。
- ◇必要な情報を集め、読み取る。
- ◇情報を基に考察する。

※社会的事象の (学級全体)  
**具体的な事実に関する知識**の習得

##### 【振り返り】(個人)

##### 単位時間

##### 単位時間

##### 単位時間

#### 3 単元の課題についてまとめる。

- ◇単位時間ごとに学習したことを基に結論について話し合う。

- ◇学習してきたことを基に、構想(選択・判断)する  
※学習内容に応じて設定

〈単元のまとめ〉 (学級全体)

※社会的事象に関する**概念に関する知識**の習得

- ◇単元全体の振り返りをする。

◇**単元全体の振り返り** (個人)

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p><b>【思判表①】</b> 問いを見出す</p>	<p><b>【主体態①】</b> 見通し</p>
<p><b>【知技①】</b></p>	<p><b>【思判表①】</b> ～〇〇(社会的事象の様子)など</p>	<p><b>【主体態①】</b> 学習状況の確認 問題の追究</p>
<p>※単位時間の中で、全ての観点について、評価するというものではありません。</p>		
<p><b>【知技②】</b> <b>記</b></p>	<p><b>【思判表②】</b> <b>記</b> 選択・判断、 社会の発展</p>	<p><b>【主体態②】</b> <b>記</b> 「社会的態度」</p>
	<p><b>【思判表②】</b> <b>記</b> △△(社会的事象の特色や意味)など</p>	<p><b>【主体態①】</b> <b>記</b> 学習状況の確認 問題の追究</p>

はばプラⅡに示されるような「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

#### 「指導に生かす評価」 (学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す) = **記**

- ・目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・社会科の知識・技能と思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での、記録が多くなることが考えられます。

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【地理】我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解しているとともに…</p> <p>【歴史】我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに…</p> <p>【公民】個人の尊厳と人権の尊重の意義、特(中略)個人と社会との関わりを中心に理解しているとともに…</p> <p>【共通】諸資料から〇〇に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p>	<p>【共通】…多面的・多角的に考察したり、〇〇に見られる課題を～公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>	<p>【地歴】～について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決(※)しようとしている。</p> <p>【公民】現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	理解	<p>課題の把握</p> <p>多面的・多角的な考察</p> <p>構想(選択・判断)</p>	見通し 学習状況の確認 課題の追究 社会参画

「知識」は、個別の事象などの知識のみに留まるものでなく、比較、分析、総合といった考える活動の結果として(考察した結果)として理解すべき内容。

「技能」については、その系統性や生徒自身の習熟を考慮した上で、適宜適切な形で評価場面を設定する。

【歴史】は、各中項目で時代を大観して、その特色を多面的・多角的に考察し、表現する場面を設定するなどして評価する。

※「解決」の文言は、「構想する」活動がある学習のみで、他は、「追究しようとしている」の表記が基本となる。

【公民】では、特に、単元の学習後も、関心をもって自ら追究し続けたい、解決したい、改善を図っていきたいということをもつことができたかどうかによって評価する。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかむ	<p>1 単元の課題を把握する。</p> <p>◇社会的事象と出合い、疑問や調べたいことをもつ。 ◇単元の課題を立てる。</p> <p><b>【単元の課題】</b> 〈単元の目標に到達するための大きな問い〉</p> <p>◇単元の課題について予想し、整理する。 ◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。</p>
追究する	<p>2 単元の課題の解決に向け、<u>単位時間ごと</u>に追究する。</p> <p><b>単位時間</b></p> <p>【めあて】 ◇追究内容、方法を確認する。 ◇必要な情報を集め、読み取る。 ◇情報を基に考察する。</p> <p>※社会的事象の (学級全体) <b>具体的な事実に関する知識の習得</b></p> <p>【振り返り】(個人)</p> <p>単位時間 単位時間 単位時間</p>
まとめる	<p>3 単元の課題についてまとめる。</p> <p>◇単位時間ごとに学習したことを基に結論について話し合う。</p> <p>◇学習してきたことを基に、構想(選択・判断)する ※学習内容に応じて設定</p> <p>〈単元のまとめ〉 (学級全体) ※社会的事象に関する<b>概念に関する知識の習得</b></p> <p>◇単元全体の振り返りをする。</p> <p>◇<b>単元全体の振り返り</b> (個人)</p>

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	【思判表】 課題の把握	【主体態】 見通し
【知技】	【思判表】 多面的・多角的な考察	【主体態】 学習状況の確認 課題の追究
<p>※単位時間の中で、全ての観点について、評価するということではありません。</p>		
【知技】	【思判表】 構想(選択・判断)	【主体態】 社会参画
【知技】	【思判表】 多面的・多角的な考察	【主体態】 学習状況の確認 課題の追究

はばプラⅡに示されるような「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

**「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記**

- 目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- 社会科の知識・技能と思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での、記録が多くなることが考えられます。

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①単元の学習内容に合わせて、知識についての内容を「~している」</p> <p>②単元の学習内容に合わせて、技能についての内容を「~できる」</p> <p><b>【知技①】</b> 単元で学ぶ学習内容を理解しているかを示す。</p> <p><b>【知技②】</b> 単元で学ぶ学習内容や方法が身に付いているかを示す。</p>	<p>○知識・技能を身に付ける学習の中で表れる学習状況の様子を「~できる」</p> <p><b>【思判表】</b> 「○○している」という状態を見取るとともに「○○ができる」かどうかを評価する。 ※考えたことを「説明できる」等の状況を見取る。</p>	<p>○単元の学習内容に合わせて、粘り強く考えようとしていたり、算数、数学のよさに気付いている様子を「~している」</p> <p><b>【主体態①】</b> 学習内容の必要性や意味を考えている。</p> <p><b>【主体態②】</b> 身の回りの事象と単元で学ぶ学習内容をつなげて考えている。</p> <p><b>【主体態③】</b> 単元の学習内容の定着を振り返ったり見直したりして、粘り強く考えようとしている。</p>

評価規準については、単元の学習内容に応じて、「内容のまとめりごとの評価規準」に加え、[用語・記号]や[内容の取扱い]に記載されていることをどのように見取るかを設定するとともに、解説の記述も参考に設定することが必要。 ※算数は、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」一覧より抜粋して記載。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

**過程と基本的な学習活動**

**1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。**

◇日常生活や社会の事象、数学の事象から算数・数学の問題にであうとともに、既習の知識及び技能、経験を基に解決する。

◇新たな学習内容と関連する既習の知識及び技能との共通点や相違点を見だし、もっと知りたいことや考えてみたいことなどを話し合う。

**【単元の課題】**  
〈単元の学習で追究していく問い〉

---

**2 単元時間の基本的な学習過程を通して「本時の問い」を解決する。**

**単元時間の基本的な流れ**

①学習を把握し、めあてを設定する。

②めあてを追究する。

(1)個別に追究し、考えを全体で共有する。

(2)考えを深める。

③学習をまとめる。 **知識及び技能の習得**

④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

**単元時間の基本的な流れ**

①学習を把握し、めあてを設定する。

②学習を深める。

③学習をまとめる。 **知識及び技能の習得**

④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

---

**3 単元で学んだことを活用する。**

◇習得してきた知識及び技能を活用し、総合的な問題を解決する。

◇解決方法やその根拠、よさなどを数学的な表現を用いて説明し合う。

◇単元全体の学習を振り返り、日常生活と数学とのつながりを考える。

**単元全体の振り返り**

〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
活動的に取り組んでいるなど興味・関心は評価に含まない。		<b>【主体態①】</b> 既習の学習内容の想起
<b>単位時間</b> 各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
<b>【知技①②】</b> 小テスト(適用問題等)で理解の状況を確認	<b>【思判表】</b> 単元の学習内容に応じた説明など	<b>【主体態①】</b> 学習状況の確認 問題の追究
<b>単位時間</b>		
	<b>【思判表】</b> <b>記</b> 単元の学習内容に応じた説明など	
<b>単位時間</b>		
<b>【知技①②】</b> <b>記</b> 小テスト(適用問題等)で理解の状況を確認		<b>【主体態①③】</b> <b>記</b> 学習状況の確認 <small>※数学では、「学びの足跡シート」などを活用し、小単元や単元の学習後に記入</small>
<b>単位時間</b>		
	<b>【思判表】</b> <b>記</b> ノート分析	
<b>単位時間</b>		
<b>【知技①②】</b> <b>記</b> ペーパーテスト	<b>【思判表】</b> <b>記</b> ペーパーテスト	<b>【主体態②】</b> <b>記</b> 日常生活とのつながりを考える <small>※数学では、「学びの足跡シート」などを活用し、小単元や単元の学習後に記入</small>

はばたくプランⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

**「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、子どもの学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

**「指導と評価の一体化」の充実**

**「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記**

- 目標の実現状況が子どもの反応から顕著に見られる場面を精選し、学習内容が定着しているかどうかを確認し、指導に生かすようにします。
- 算数、数学科の知識・技能についてはペーパーテストとして定着を見取ることができます。
- 思考・判断・表現をペーパーテストで見取る場合は、出題を工夫する必要があります。
- 主体的に学習に取り組む態度については、学習を小単元ごとに振り返る機会を設定し、子ども自身に有用性を実感させる必要があります。

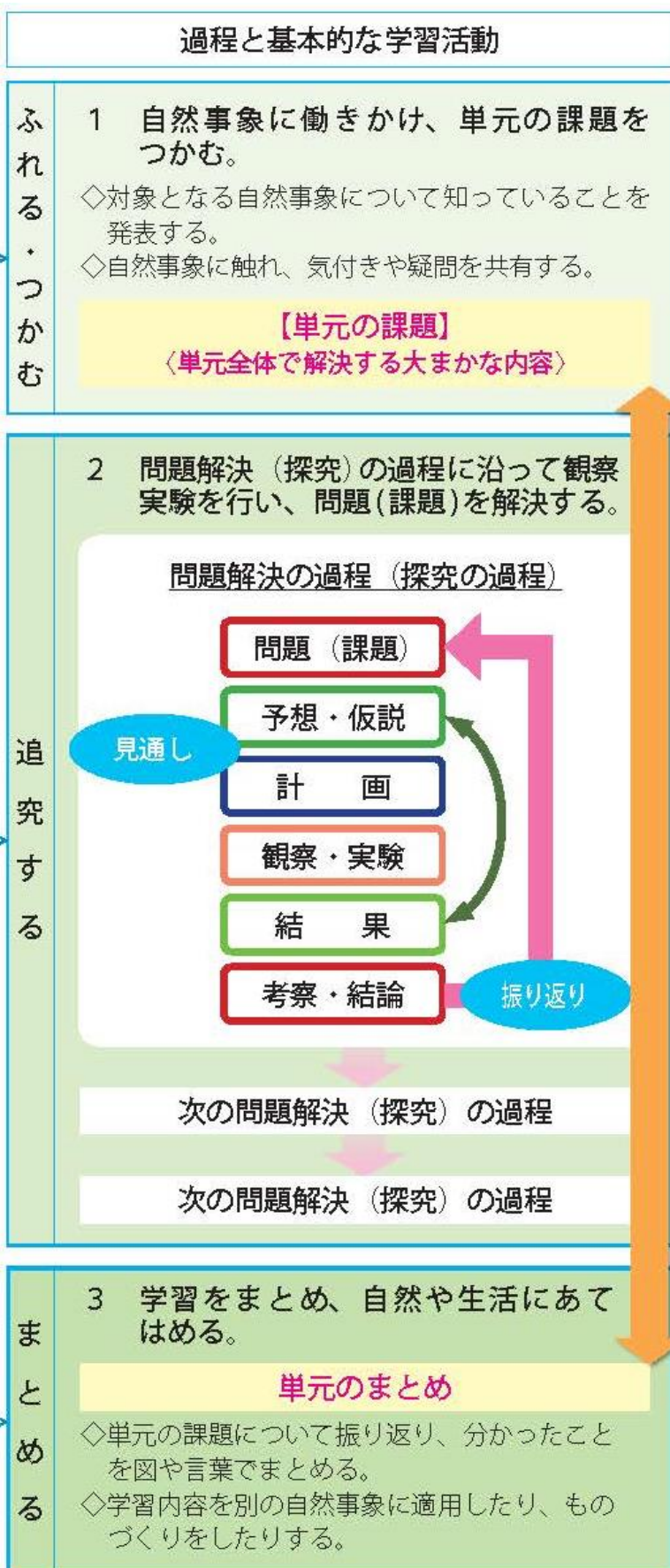
単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(ア)を理解している。 【知技①】 自然の事物・現象についての性質や規則性などについての理解	(A)について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 【思判表①】 観察、実験前 ・問題の見だし(3年) ・予想、仮説の発想(4年) ・解決方法の発想(5年)	(A)についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 【主体態①】 ・粘り強い取組を行おうとする側面 ・自ら学習を調整しようとする側面
(A)について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 【知技②】 観察や実験における器具の操作や、結果の記録	(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 【思判表②】観察、実験後 ・結果を基にした考察(6年)	(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 【主体態②】 ・理科を学ぶことの意義や有用性の認識という側面

※(ア)は、知識に関する内容を示している。(A)は、内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※下線部は、学年によって異なる場合がある部分を示している。

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方



〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技①】 単元の学びに必要な知識や技能	【思判表①】 問題の見だし	
【知技②】 <sup>記</sup> 器具の操作や、結果の記録	【思判表①②】 <sup>記</sup> 問題解決の力	【主体態①】 <sup>記</sup> 問題解決に取り組む態度
	次の問題解決の過程	
	次の問題解決の過程	
	次の問題解決の過程	
【知技①】 <sup>記</sup> 性質や規則性についての理解		【主体態②】 <sup>記</sup> 理科を学ぶことの意義や有用性

主に学習活動において、児童の学習状況をみとり、評価をすることになるので、単元が、問題解決的な学習でない限り、評価をすることはできません。

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

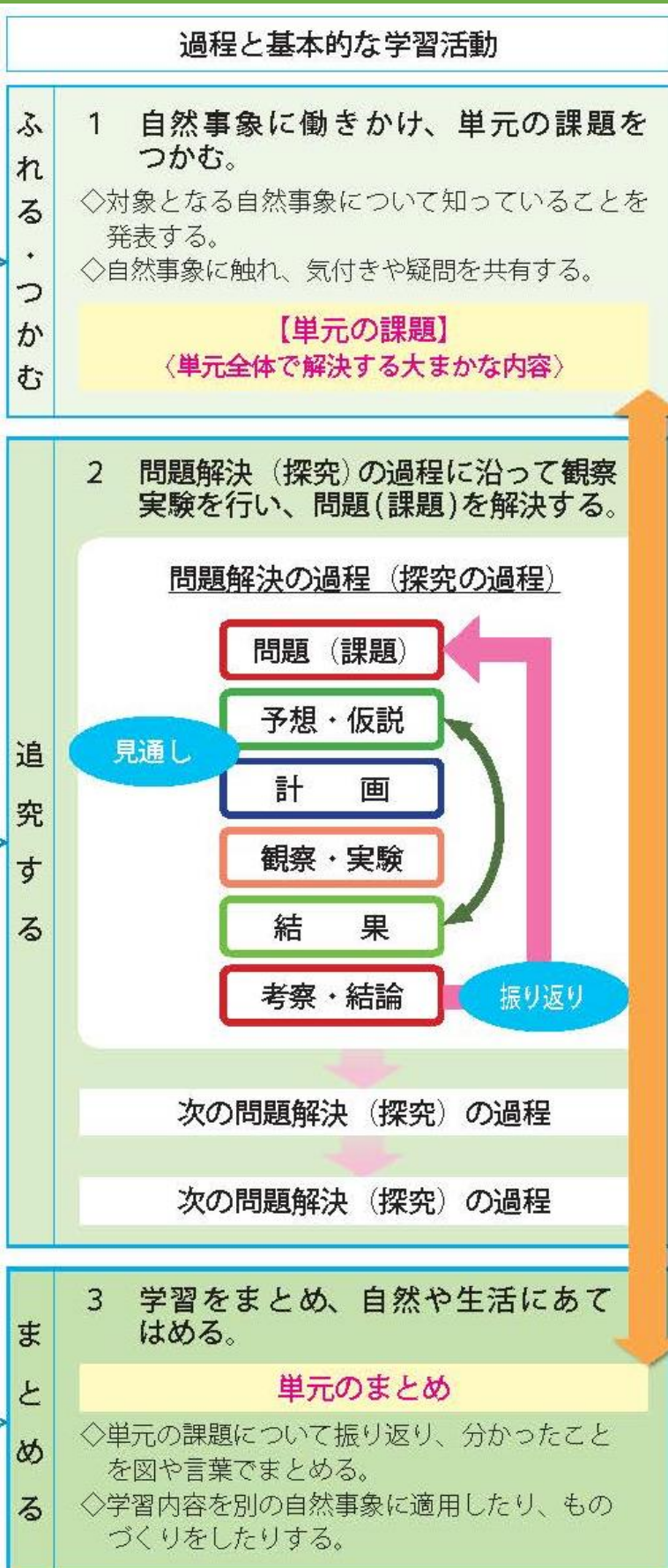
「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す)<sup>記</sup>  
・目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面を精選します。  
・知識・技能の技能面、思考、判断・表現については、観察、実験の中や、その前後で学習状況を捉えます。

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>Aに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、〇〇を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知技①】 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか</p> <p>【知技②】 観察や実験などに関する基本操作や結果の記録や整理、活用の仕方を身に付けているか</p>	<p>〇〇について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現している科学的に探究している。</p> <p>【思判表】 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか</p> <p>1年 問題を見いだし</p> <p>2年 解決する方法を立案して</p> <p>3年 探究の過程を振り返るなど</p>	<p>〇〇に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>【主体態】 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしているか</p>

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方



〈例〉評価の位置付

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知技①】 単元の学びに必要な知識や技能 <b>記</b></p>	<p>【思判表】 課題の設定</p>	
<p>探究の過程</p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技②】 <b>記</b> 器具の操作や、結果の記録</p>	<p>【思判表】 <b>記</b> 科学的に探究する力</p>	<p>【主体態】 科学的に探究しようとする態度</p>
<p>次の探究の過程</p>		
<p>次の探究の過程</p>		
<p>次の探究の過程</p>		
<p>【知技①】 <b>記</b> 概念や原理・法則についての理解</p>		<p>【主体態】 <b>記</b> 習得した知識及び技能を活用して、課題を解決しようとする態度</p>

主に学習活動において、児童の学習状況をみとり、評価をすることになるので、単元が、問題解決的な学習でない限り、評価をすることはできません。

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) **記**

- ・目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・知識・技能の技能面、思考、判断・表現については、観察、実験の中や、その前後で学習状況を捉えます。

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇に気付いている。 〇〇が分かっている。 など ※〇〇には、知識の具体を記述する。</p> <p>【知技①・②】 気付きの質の高まり</p> <hr/> <p>【知技③】 学習活動における習慣や技能</p> <p>②△△において(の際)、 〇〇している。 ※△△には、学習活動を、 〇〇には、習慣や技能の 具体を記述する。</p>	<p>①～⑤ 〇〇して(～しながら)、 △△している。 ※〇〇には、具体的な 学習活動において 期待する思考を、 △△には、具体的な 児童の姿を記述する。 ＜期待する思考＞例 ・見付けて、比べて、 たとえて、試して、 見通して、工夫して ＜児童の姿＞例 ・観察している、表して いる、遊んでいる</p> <p>【思判表①～⑤】 具体的な学習活動にお いて期待する思考</p>	<p>【主体態①②】 粘り強さ…思いや願 いの実現に向かおうと していること</p> <p>【主体態③】 学習の調整…状況に 応じて、自ら働きかけよ うとしていること</p> <p>【主体態④】 実感や手応え…意 欲や自信をもって学 んだり生活を豊かにし たりしようとするを 繰り返し、安定的に行 おうとしていること</p> <p>①～③ 〇〇し、△△しよう としている。 ※〇〇には、粘り強さ、 学習の調整、実感や 手応えに関して具体 的に表したものを、 △△には、具体的な 児童の姿を記述する。</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

**過程と基本的な学習活動**

**1 学習対象に対して思いや願いをもつ。**  
◇学習対象と出会う。  
◇学習対象について気付いたことや思ったことを伝えたり、話し合ったりする。  
◇単元の課題をつかむ。

【単元の課題】  
〈単元を通して実現したい思いや願い〉  
◇単元の課題の実現に向けての学習対象との関わり方を考える。

**2 具体的な活動や体験をする。**

**単位時間**  
【めあて】  
◇学習対象と関わる。  
◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。  
◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。  
【振り返り】

**単位時間**  
【めあて】  
◇新たな気付きを基に、再び学習対象と関わる。  
◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。  
◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。  
【振り返り】

**単位時間**

**単位時間**

**3 活動や気付き、考えについて振り返る。**  
◇単元を通して、気付いたことや考えたことをまとめたり、友達に伝えたりする。  
◇思いや願いの実現に向けての活動を通して、自分の成長やよさを振り返る。

◇単元全体の振り返り (個人)

### 〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技①】 気付きの質の高まり		【主体態①】 粘り強さ
【知技①】 気付きの質の高まり <b>記</b>		【主体態①】 粘り強さ <b>記</b>
<b>単位時間</b>		
各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技②】 気付きの質の高まり	【思判表①～④】 期待する思考	【主体態②】 粘り強さ 【主体態③】 学習の調整
【知技③】 習慣や技能		
<b>単位時間</b>		
【知技②】 気付きの質の高まり <b>記</b>		【主体態②】 粘り強さ <b>記</b>
【知技③】 習慣や技能 <b>記</b>	【思判表①～④】 期待する思考 <b>記</b>	【主体態③】 学習の調整 <b>記</b>
<b>単位時間</b>		
	【思判表⑤】 期待する思考	【主体態④】 実感や手応え
	【思判表⑤】 期待する思考 <b>記</b>	【主体態④】 実感や手応え <b>記</b>

はばプランⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

#### 「指導に生かす評価」 (学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す) = **記**

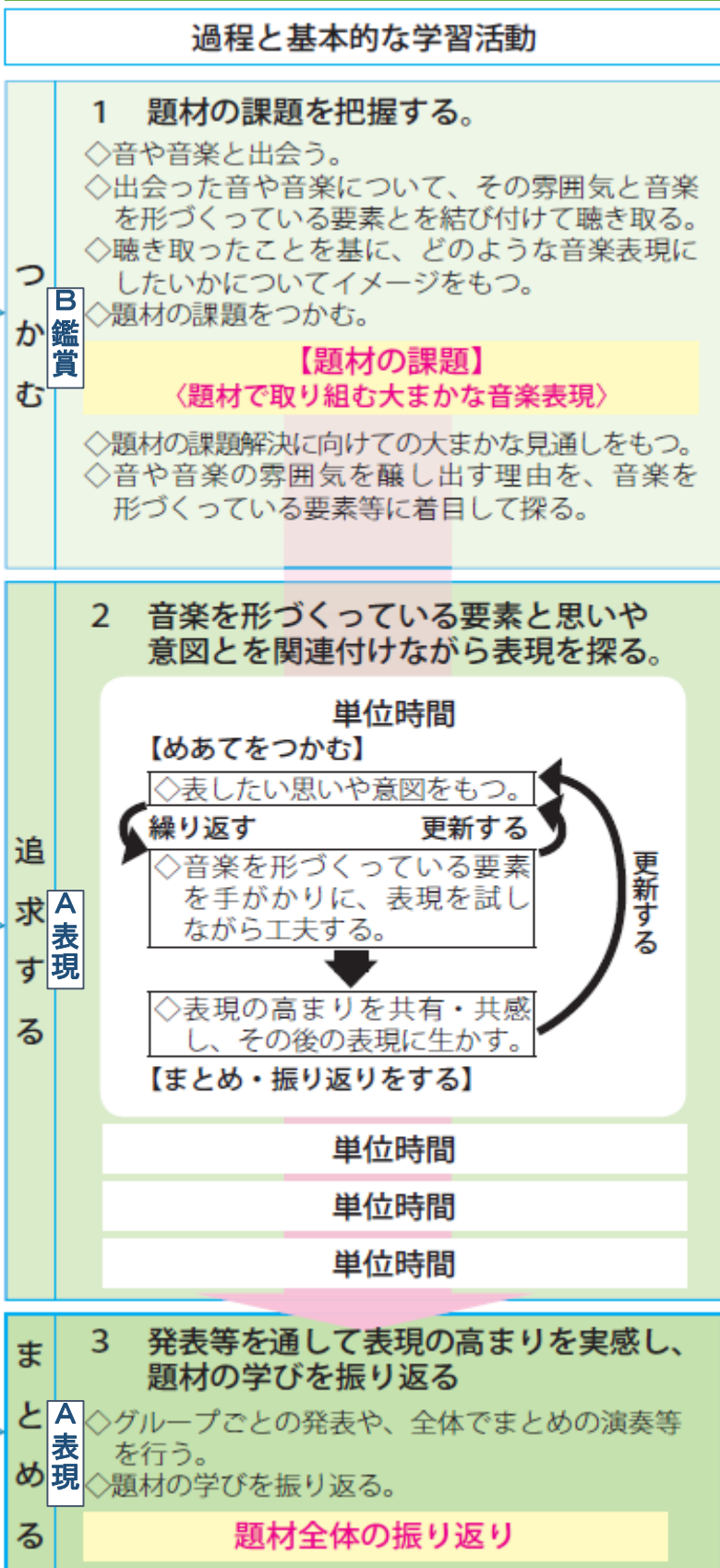
- 目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- 生活科は、継続的に指導(形成的評価)を積み重ねた結果としての学習状況と捉え、学習過程での、記録が多くなるのが考えられます。

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

		評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 表現 (第5・6学年の例) 歌唱・器楽	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。(※第1学年～第4学年は、「気付いている。」) 【知識】	[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい(※第1・2学年は「曲想を感じ取って」、第3・4学年は「曲の特徴を捉えた」)表現を工夫し、どのように歌うか(器楽分野の場合は「演奏するか」)について思いや意図(※第1・2学年は、下線部不要)をもっている。		[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄]に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、音楽づくり分野の場合は「音楽づくり」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。
	・思いや意図(※第1・2学年は、下線部不要)に合った表現をするために必要な[事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)](いずれかを選択)を身に付けて歌っている。(※器楽分野の場合は、「演奏している。」) 【技能】	[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなど(※第1・2学年は、「楽しさ」)を見だし、曲全体を味わって聴いている。		
B 鑑賞 (第5・6学年の例)	曲想及びその変化(※第1・2学年は、下線部不要)と、音楽の構造との関わりについて理解している。(※第1学年～第4学年は、「気付いている。」) 【知識】  (「技能」に関する評価規準は設定しない。)			

※「A表現」音楽づくり分野の文例は、令和元年度新教育課程説明会資料18ページを参照。

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に



〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知】 B 鑑賞 <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">記</span>	【思判表】 B 鑑賞 <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">記</span>	【主体態】 B 鑑賞
<p>単位時間</p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
【知技】 A 表現	【思判表】 A 表現 <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">記</span>	【主体態】 A 表現
※単位時間の中で、全ての観点について評価するということではありません。		
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 A 表現 <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">記</span>		【主体態】 題材全体 <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">記</span>

指導と評価の計画の作成に当たっては、はばたく群馬Ⅱで示した、各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮します。

**「指導に生かす評価」**  
(学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」**  
(評価したことを記録に残す)  
= 記

・指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付けます。

・音楽科の「主体的に取り組む態度」は、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、題材の最後に記録に残すことが多くなります。



題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>A表現</b> (第1学年の例)	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 【知識】 ・[事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。 【技能】	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図を持っている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもちたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。
<b>B鑑賞</b> (第2・3学年の例)	[事項イの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について理解している。 【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、[事項アの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

**過程と基本的な学習活動**

**1 題材の課題を把握する。**

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気と音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

**【題材の課題】**  
 〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に着目して探る。

**2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。**

**単位時間**  
**【めあてをつかむ】**  
 ◇表したい思いや意図をもつ。  
 繰り返す → 更新する

◇音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現を試しながら工夫する。  
 更新する

◇表現の高まりを共有・共感し、その後の表現に生かす。  
**【まとめ・振り返りをする】**

単位時間  
 単位時間  
 単位時間

**3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る**

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

**【まとめ】**  
 題材全体の振り返り

〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知】 B鑑賞	【思判表】 B鑑賞	【主体態】 B鑑賞
<b>単位時間</b>		
各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 A表現	【思判表】 A表現	【主体態】 A表現
※単位時間の中で、全ての観点について評価するというものではありません。		
<b>単位時間</b>		
<b>単位時間</b>		
<b>単位時間</b>		
【知技】 A表現		【主体態】 題材全体

指導と評価の計画の作成に当たっては、はばたくⅡで示した、各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮します。

**「指導に生かす評価」**  
 (学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」**  
 (評価したことを記録に残す)  
 = 記

・指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付けます。  
 ・音楽科の「主体的に取り組む態度」は、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、題材の最後に記録に残すことが多くなります。

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>自分の感覚や行為を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～形や色などに気付いている。</li> <li>～形や色などの感じが分かっている。</li> <li>～形や色などの造形的な特徴を理解している。</li> </ul> <p>【知識】〔共通事項〕アを基に作成 下線部は、題材に即して、文言を削除したり追記したりする。 造形的な視点を豊かにするための知識として評価する。</p> <p>学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項の〔共通事項〕の取扱い」と題材との関連を考慮する。</p>	<p>形や色など(の感じ)(造形的な特徴)を基に、イメージをもちながら、～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な○○や□□など～どのように活動するか考えている。(造形遊び)</li> <li>感じたこと、想像したこと、～どのように(主題)を表すかについて考えている。(絵や立体、工作)</li> </ul> <p>○○や□□、下線部については、題材に応じた材料等を記載する。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい楽しく(進んで)(主体的に)～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>～○○で造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>～○○を組み合わせて、絵(工作)(立体)に表す学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul> <p>【主体態(表現)】 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとする事へ向かう主体的な態度を評価する。</p>	
<p>身近で扱いやすい材料や用具～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具を適切に扱うとともに～</li> <li>活動(表現方法)に応じて～</li> </ul> <p>～活動を工夫してつくっている。(造形遊び) ～工夫して表している。(絵や立体、工作)</p> <p>【技能】A「表現」(2)アイを基に作成 下線部を具体的な用具や材料に変えて示す。 表現の活動を通して育成する技能の資質・能力を評価する。</p>	<p>形や色など(の感じ)(造形的な特徴)を基に、イメージをもちながら～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの作品や身近な材料～〔1, 2年〕</li> <li>自分たちの作品や身近な美術作品～〔3, 4年〕</li> <li>自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品～〔5, 6年〕</li> </ul> <p>～見方感じ方を広げて(深めて)いる。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい楽しく(進んで)(主体的に)△△を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>△△については、題材に応じた鑑賞の対象を記載する。</p>	<p>【主体態(鑑賞)】 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などを基に、見方や感じ方を広げたり深めたりしようとする姿を評価する。</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材の作り方 (例:A表現「絵や立体、工作に表す」)

過程と基本的な学習活動	
出会う	<p><b>1 表現の見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。</li> <li>◇題材の課題を立てる。</li> </ul> <p>【題材の課題】 〈題材全体で学習する 大まかな内容〉</p>
試す・広げる	<p><b>2 表したいことや主題を発想・構想する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。</li> <li>◇思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。</li> <li>◇表したいことや主題を基に、構想を練る。</li> <li>◇材料や用具、表現方法を習得する。</li> </ul>
表す	<p><b>3 構想を基に制作する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。</li> <li>◇材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。</li> <li>◇制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。</li> </ul>
振り返る	<p><b>4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。</li> </ul> <p>◇題材全体の振り返り</p>

〈例〉評価の位置付け (絵や立体、工作に表す題材)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知識】作品鑑賞などを基に、形や色などの感じや造形的な特徴を理解しているかをみとり指導に生かす。</p>	<p>【思判表(発想・構想)】表したいことを生み出し構想を練っているかを評価</p>	<p>【主体態(表現)】「知識理解」や「発想・構想」に関する取組の態度を評価</p>
<p>「出会う過程」の活動内容により、重点を置く評価の観点は変わります。(3観点全て評価するわけではありません。)</p>		
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技】題材で使用する材料や用具等に慣れ(生かし)(活用し)、表し方を工夫しているか、知識と一体的に評価</p>	<p>【思判表(発想・構想)】表したいことの変化などを基に再度評価</p>	<p>【主体態(表現)】「発想・構想」や「知識・技能」に関する態度を評価</p>
<p>【知技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【思判表(鑑賞)】造形的なよさや面白さ、美しさなどについて考えているか評価</p>	<p>【主体態(鑑賞)】楽しく(進んで、主体的に)取り組もうとしている態度を評価</p>

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

- ・記は、題材の観点別学習評価の総括に用いる「題材の評価規準」を示しています。
- ・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・学習過程の後半での、記録が多くなることが考えられます。

〈題材終了後〉

<p>【知技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【思判表(鑑賞)】【鑑賞】ワークシートなどでの見取り</p>	<p>・題材終了後、完成作品やワークシート、アイデアスケッチなどを基に、必要に応じて評価を修正する。</p>
----------------------------------	-----------------------------------	--

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に○○などを全体のイメージや作風で捉えていることを理解している。</p> <p>【知識】<b>〔共通事項〕</b>より作成/下線部は、題材に即して、文言を削除したり追記したりする。造形的な視点を豊かにするための知識として評価する。</p> <p>学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の〔共通事項〕の取扱いと題材との関連を考慮する。</p> <p>例示は、第1学年</p> <p>・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p> <p>・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。</p> <p>【技能】<b>A「表現」(2)ア(ア)(イ)</b>より作成/題材によっては、(ア)(イ)の両方を示さない場合もある。下線部を具体的な用具や材料に変えて示す。表現の活動を通して育成する技能の資質・能力を評価する。</p>	<p>・対象や事象を(深く)見つめ～</p> <p>・構成や装飾の目的や条件～</p> <p>・伝える目的や条件～</p> <p>・使う目的や条件～</p> <p>～主題を生み出し…表現の構想を練っている。</p> <p>【思判表(発想・構想)】<b>A「表現」(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)</b>より作成/下線部ほか、題材に即して具体的な文言で示したり、文言を削除・追記したりする。発想・構想に関する資質・能力を評価する。</p> <p>( )内は、第2学年及び第3学年</p> <p>・造形的なよさや美しさを感じ取り～</p> <p>・目的や機能～</p> <p>・身の回りにある～</p> <p>・身近な地域や～</p> <p>～見方や感じ方を広げている。(深めている。)</p> <p>【思判表(鑑賞)】<b>B「鑑賞」(1)ア、(ア)(イ)イ、(ア)(イ)</b>より作成/鑑賞の関する資質・能力を評価する。</p>	<p>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく(主体的に)目的や機能などを考えた～</p> <p>～表現の(幅広い)学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(表現)】「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようしたり、発揮しようとする事へ向かう主体的な態度を評価する。</p> <p>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく(主体的に)作品や美術文化などの鑑賞の(幅広い)学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(鑑賞)】下線部は、題材に即して具体的な文言で示す。作者の心情や表現の意図などを考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしている姿を評価する。</p>	

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方 (例:表現の題材)

過程と基本的な学習活動	
出会う	<p><b>1 表現の見通しをもつ。</b></p> <p>◇題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。</p> <p>◇題材の課題を立てる。</p> <p>【題材の課題】 〈題材全体で学習する 大まかな内容〉</p>
試す・広げる	<p><b>2 表したいことや主題を発想・構想する。</b></p> <p>◇大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。</p> <p>◇思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。</p> <p>◇表したいことや主題を基に、構想を練る。</p> <p>◇材料や用具、表現方法を習得する。</p>
表す	<p><b>3 構想を基に制作する。</b></p> <p>◇思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。</p> <p>◇材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。</p> <p>◇制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。</p>
振り返る	<p><b>4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。</b></p> <p>◇作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。</p> <p>◇題材全体の振り返り</p>

〈例〉評価の位置付け(表現の題材)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知識】形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り指導に生かす。</p>	<p>【思判表(発想・構想)】主題を生み出し構想を練っているか評価</p> <p>「出会う過程」の活動内容により、重点を置く評価の観点は変わります。(3観点全て評価するわけではありません。)</p>	<p>【主体態(表現)】「知識理解」や「発想・構想」などに関する態度を評価</p>
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技】題材で使用する材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているか、制作の順序などを考えながら見通しをもって表しているか、知識と一体的に評価</p>	<p>【思判表(発想・構想)】主題を生み出し構想を練っているか暫定的に評価</p> <p>【思判表(発想・構想)】主題の変化、配色計画などを基に再度評価</p>	<p>【主体態(表現)】「発想・構想」や「知識・技能」に関する態度を評価</p> <p>【主体態(表現)】題材全体を通して評価</p>
	<p>【思判表(鑑賞)】作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えているか評価</p>	<p>【主体態(鑑賞)】楽しく(主体的に)取り組もうとしている態度を評価</p>

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・記は、題材の観点別学習評価の総括に用いる「題材の評価規準」を示しています。

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

・学習過程の後半での、記録が多くなることを考えられます。

〈題材終了後〉

<p>【知技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【思判表(鑑賞)】ワークシートなどでの見取り</p>	<p>・題材終了後、完成作品やワークシート、アイデアスケッチなどを基に、必要に応じて評価を修正する。</p>
----------------------------------	-------------------------------	--

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。</p> <p>【知技（運動領域）】 ・運動の行い方についての理解 <b>知識</b> ・基本的な動きや技能 <b>技能</b></p>	<p>①〇〇の運動について自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表（運動領域）】 ・自己の課題を見いだす課題に応じた活動の選択 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等での表出 <b>表現</b></p>	<p>①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【主体態（運動領域）】 公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を踏まえて確認</p>
<p>②身近な生活における△△について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知技（保健領域）】 ・△△についての理解 <b>知識</b> ・基本的な技能 <b>技能</b></p>	<p>②身近な生活における△△に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表（保健領域）】 ・自己の課題を見いだす資料等を活用した比較や分析 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等での表出 <b>表現</b></p>	<p>②健康を大切にしながら、自己の健康の保持増進についての△△に関する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【主体態（保健領域）】 学習状況の確認 課題の追究</p>

※「運動領域」については、知識と技能を別々に評価する場合も想定される。また、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用等の段階を踏まえ、一定期間をおくなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかかむ	<p><b>1 単元の課題をつかむ。</b> ◇試しの活動（記録の測定やゲーム等）や課題把握につながる身近な事象（生活）等を見直す。 ◇単元の課題を明確にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>単元の課題</b> ＜単元の目標を達成するための学習内容＞</p> <p>◇追究内容や方法、学習の計画を明確にする。</p>
追究する	<p><b>2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。</b></p> <p>【単位時間】 ◇課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。（活動1） ◇習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。（活動2） ※学習する領域や学習スタイル（個人・集団）にあった単元をつくるのが大切。 体育授業プログラム等資料参考 ※保健領域は、内容に応じて、単位時間（小単元）ごとに追究する。</p> <p>【単位時間】</p> <p>【単位時間】</p> <p>【単位時間】</p>
まとめる	<p><b>3 単元の課題についてまとめる。</b> ◇学習の成果を発表する（試す）。 ・演技会や記録会、リーグ戦等 ＜運動領域・体育分野＞ ・グループ発表やレポート紹介等 ＜保健領域・保健分野＞ ◇学習成果を確認し整理する。</p> <p>◇単元全体を振り返り、習得した技能や知識等を整理し、日常生活や次の単元に生かせることをクラス全体で共通理解する。 ※学級全体</p> <p>◇学習の成果を確認する。</p> <p style="text-align: center;"><b>◇単元全体の振り返り</b> &lt;個人&gt;</p>

〈例〉 評価の位置付け		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技】 運動の行い方等の理解	【思判表】 課題を見出す	【主体態】 学習状況
<b>単位時間</b>		
各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える 等	【主体態】 公正、協力、等 課題の追究
※評価の観点は、1時間につき1～2程度にするなど、評価するにあたり無理のない計画を立てるようにします。ただし、重点項目以外は評価しないということではなく、必要に応じて随時記録に残しておくことが大切です。		
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える など	【主体態】 学習状況 課題の追究
【知技】 <b>総</b> 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 <b>総</b> 選択や工夫 他者に伝える 等	【主体態】 <b>総</b> 公正、協力、等 課題の追究

「指導に生かす評価」  
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
総括的評価… **総**

・目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。  
・単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の総括的評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇〇について運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知技(体育分野)】 ・基本的な技能 <b>技能</b> ・合理的な実践や運動を豊にする実践についての理解 <b>知識</b></p>	<p>①〇〇〇について、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表(体育分野)】 ・自己や仲間の課題発見、課題に応じた選択と工夫 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等で表出 <b>表現</b></p>	<p>①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(体育分野)】 ・公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を踏まえて確認</p>
<p>②△△△における個人生活の健康・安全について、科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知技(保健分野)】 ・基本的な技能 <b>技能</b> ・健康・安全についての科学的な理解 <b>知識</b></p>	<p>②△△△における個人生活の健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表(保健分野)】 ・課題発見、科学的な思考判断 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等で表出 <b>表現</b></p>	<p>②健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(保健分野)】 ・学習状況の確認 ・課題の追求</p>

【体育】単元の前半に、特性や技術的な知識等の学習機会を設け、練習する時間を設定し、その後適宜適切な形で技能を評価するように工夫する。

【保健】すべての時間に重点や記録に残す評価を入れるのではなく、学習のまとまりの学習内容と学習活動に対応させてバランス良く評価するように工夫する。技能は出来映えのみを評価するのではなく、知識と一体的に評価する。

【体育】知識や技能を活用して、課題発見、課題解決のための選択、仲間に伝え合う等の評価ができるように工夫する。

【保健】単元を通して課題の発見、改題解決、表現等の評価ができるように工夫する。

【体育】各項目をバランスよく評価する場面を設定するとともに、継続的に指導と評価ができるように工夫する。

【保健】性格や行動面の傾向を評価することでのびのびと留意し、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている意志的な側面を評価できるように工夫する。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかかむ	<p><b>1 単元の課題をつかむ。</b></p> <p>◇試しの活動(記録の測定やゲーム等)や課題把握につながる身近な事象(生活)等を見直す。 ◇単元の課題を明確にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>単元の課題</b> ＜単元の目標を達成するための学習内容＞</p> <p>◇追究内容や方法、学習の計画を明確にする。</p>
追究する	<p><b>2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【単位時間】</b></p> <p>◇課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。(活動1) ◇習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。(活動2) ※学習する領域や学習スタイル(個人・集団)にあった単元をつくるのが大切。 体育授業プログラム等資料参考 ※保健領域は、内容に応じて、単位時間(小単元)ごとに追究する。</p> <p style="text-align: center;">【単位時間】</p> <p style="text-align: center;">【単位時間】</p> <p style="text-align: center;">【単位時間】</p>
まとめる	<p><b>3 単元の課題についてまとめる。</b></p> <p>◇学習の成果を発表する(試す)。 ・演技会や記録会、リーグ戦等 ＜運動領域・体育分野＞ ・グループ発表やレポート紹介等 ＜保健領域・保健分野＞</p> <p>◇学習成果を確認し整理する。</p> <p>◇単元全体を振り返り、習得した技能や知識等を整理し、日常生活や次の単元に生かせることをクラス全体で共通理解する。 ※学級全体</p> <p>◇学習の成果を確認する。</p> <p style="text-align: center;"><b>◇単元全体の振り返り</b> &lt;個人&gt;</p>

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>◆3観点の評価規準をバランス良く配置する工夫</p> <p>◆3観点の評価規準の関連を図る工夫</p>		
【知技】 合理的な実践についての理解	【思判表】 課題発見	【主体態】 健康・安全な態度 学習状況
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい(指導内容)」によって、変わります。</p>		
【知技】 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える等	【主体態】 公正、協力、等 課題の追求
<p>※評価の観点は、1時間につき1～2程度にするなど、評価するにあたり無理のない計画を立てるようにします。ただし、重点項目以外は評価しないということではなく、必要に応じて随時記録に残しておくことが大切です。</p>		
【単位時間】		
【単位時間】		
【単位時間】		
【知技】 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える等	【主体態】 参画、共生、等 課題の追求
【知技】 <b>総</b> 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【思判表】 <b>総</b> 課題発見 選択や工夫 他者に伝える	【主体態】 <b>総</b> 公学習状況 公正、協力等 課題の追求

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

単位時間において、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師は指導の成果や課題を明らかにし、指導改善に生かします。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
総括的評価…**総**

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。  
・単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の総括的評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。</p> <p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。</p> <p>・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。</p> <p>・内容A(4)ア、B(7)ア、C(3)アの評価の観点とは、知識・技能ではなく、思考・判断・表現である。</p>	<p>【知】 知識のみ</p> <p>【知識・技能】 知識及び技能</p>	<p>指導事項イについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について(①)問題を見いだして課題を設定し、(②)様々な解決方法を考え、(③)実践を評価・改善し、(④)考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p> <p>【思判表①】 課題の設定</p> <p>【思判表②】 解決方法の検討と計画</p> <p>【思判表③】 実践の評価・改善</p> <p>【思判表④】 考えたことを表現</p>	<p>「～について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p> <p>【主体態①】 粘り強さ</p> <p>【主体態②】 自らの学習の調整</p> <p>【主体態③】 実践しようとする態度※</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材の作り方

#### 過程と基本的な学習活動

- 1 題材の課題を設定する。**
- ◇生活の中から問題を見だし、整理する。
  - ◇見いだした問題を基に題材の課題を立てる。
- 【題材の課題】**
- 〈題材の目標に到達するための大きな問い〉
- ◇学習の計画を立てて、題材の学習の見通しをもつ。

#### 2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

##### 単位時間

- 【めあて】**
- ◇実践的・体験的な活動をする。
  - ◇気付いたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。
  - ◇気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。
- 【振り返り】**

##### 単位時間

##### 単位時間

- ※習得させたい知識及び技能が多ければ、この時数が多くなります。
- ※「生活についての課題と実践」の題材では、この過程は省略されます。

#### 3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、課題の解決に向けた計画を作成する。
- ◇検討したことを基に、計画を修正する。

#### 4 題材の課題の解決に向けた実践(実習)をする。

- ◇3で立案した計画に従って、実践(実習)する。
  - ◇実践(実習)を評価する。
- ※3の学習で、家庭・地域での実践計画を作成した場合は、ここは省略されます。

#### 5 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。

- ◇「題材の課題」について、まとめる。
- 【題材の課題】のまとめ**
- ◇4の実践(実習)や家庭・地域での実践を基に、改善策や生活に生かしたいことを考える。
- ◇**題材全体の振り返り**

【家庭・地域での実践】

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	【思判表①】 <b>記</b> 課題の設定	
【知技】		【主体態①】 <b>記</b> 粘り強さ
		【主体態②】 <b>記</b> 自らの学習の調整
【知技】 <b>記</b>	【思判表②】 <b>記</b> 解決方法の検討と計画	
	【思判表③】 <b>記</b> 実践の評価・改善	
	【思判表④】 <b>記</b> 考えたことを表現	【主体態③】 <b>記</b> 実践しようとする態度

繰り返し学習しながら習得する知識及び技能は、学習過程の後半で評価する。

※「4 題材の課題解決に向けた実践(実習)をする」で記録に残す評価をする場合もある。

はばプラⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」  
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
(評価したことを記録に残す)  
= **記**

- ・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・知識・技能は、継続的に指導(指導に生かす評価)を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなるのが考えられます。
- ・思考・判断・表現は、教科の目標に思考力・判断力・表現力等の育成に係る学習過程が記載されているため、必ず4つのことについて評価でする。

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について(を)理解している。」として作成する。</p> <p>知識のみ</p>	<p>・指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置づけに基づき「～について①問題を見いだして課題を設定し、②様々な方法等を構想して設計を具体化するとともに、③製作(制作・育成)の過程や結果の評価、改善及び④修正について考えている。」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①課題の設定 ②解決策の構想 ③実践の評価・改善 ④評価・改善したことを表現</p>	<p>・指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～に向けて、①課題の解決に主体的に取り組んだり、②振り返って改善したりして、③技術を工夫し創造しようとしている」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①粘り強さ※ ②自らの学習の調整※ ③技術を工夫し創造する態度</p>

・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。

・「思考・判断・表現」については、指導事項イについて評価する。

※①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにむけた粘り強い取組を行おうとする側面。  
②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方

**過程と基本的な学習活動**

- 1 題材の課題を把握する。**  
◇題材に関わる技術と生活、社会、環境との関わり気付く。  
【題材の課題】(全体)  
(題材の目標を達成するための問い)  
◇題材の学習の見通しをもつ。
- 2 基礎的な知識等を身に付ける。**  
◇題材に関わる技術の見方・考え方に気付く。  
◇題材に関わる技術の科学的な原理・法則と仕組みを知る。
- 3 「製作・制作・育成の課題」を設定する。**  
◇生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだす。  
◇個人で「製作・制作・育成の課題」を設定する。  
「製作・制作・育成の課題」(※個人)
- 4 設計・計画する。**  
◇設計・計画や製作・制作・育成に必要な知識及び技能を習得する。  
◇製作・制作・育成の課題の解決策を構想し、図・計画に表す。  
◇試作・試行を通して、構想した解決策を具体化する。  
◇製作・制作・育成の作業計画を立てる。
- 5 解決に向けて製作・制作・育成する**  
◇構想した解決策及び、作業計画に基づき、製作・制作・育成を行う。
- 6 成果を評価する。**  
◇製作・制作・育成の課題の解決結果と解決の過程を、個人及び相互に評価する。

製作・制作・育成の振り返り

**7 これからの技術の在り方を考える。**  
◇つかむ過程で把握した題材の課題について、改めて確認する。  
◇社会問題や最新の技術について調べ、優れた点や問題点について、意見を交流する。  
◇これからの自分の生活や題材に関わる技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ (全体)  
題材全体の振り返り(個人)

〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技】 知識のみ	【思判表】 ①課題の設定	
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p> <p>【知技】 知識及び技能</p> <p>【思判表】 ②解決策の構想</p> <p>【主体態】 ①粘り強さ</p> <p>※単位時間の中で、全ての観点について、評価するということではありません。</p>		
<p><b>単位時間</b></p> <p><b>単位時間</b></p> <p>【思判表】 ③実践の評価・改善</p> <p>【主体態】 ②自らの学習の調整</p>		
<p><b>単位時間</b></p> <p>【思判表】 ④評価・改善したことを表現</p> <p>【主体態】 ③技術を工夫し創造する態度</p>		

はばプラⅡに示される「問題解決的な学習」の題材構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

**「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記**

記録に残す評価については、毎回の授業で、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点について行うのではなく、目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

# 【小学校 外国語活動・外国語科】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>&lt;知識&gt; ○○について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; △△について○○を用いて、□□を～～する技能を身に付けている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>○○の理解 ○○の正しい活用</p> </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や基本的な表現を用いて□□を～～している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>【思判表】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>目的・場面・状況のある言語活動において、自分の思いや考えを適切に表現したり、理解したりしている状況</p> </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や基本的な表現を用いて□□を～～しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>【主体態】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>他者へ配慮しながら、課題解決しようとする態度</p> </div>
<p>・「書くこと」においてはアルファベットの活字体の大文字、小文字を書く技能を身に付けている状況の評価する。</p> <p>・「読むこと」は当該単元で扱うアルファベットの活字体を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている状況の評価する。</p>	<p>・「話すこと[やり取り]」では当該単元で学習した語句や表現に関わらず、既習事項も含めて適切に伝え合っている状況の評価する。</p>	<p>・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返りたりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元ではなく、年間を通じて評価する。</p>

※○○は言語材料、△△は事柄・話題、□□は内容、☆☆は目的

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

##### 課題提示型

- ◇単元の課題に出合う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

##### 課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。  
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

#### 【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。
- ※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
- ※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

##### 単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

##### 【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

#### 3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
「Small Talk」や「試しの活動」において、児童の学習状況を把握します。		
<b>単位時間</b> ○各単位時間で記録に残す評価を行うことはありません。 ○ <b>C</b> 教科書の活用については、「ねらい」によって、評価の対象は変わります。		
A	B <b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span>	C <b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span> <b>【思判表】</b> <span style="float: right;">記</span> <b>【主体態】</b> <span style="float: right;">記</span>
単位時間		
単位時間		
単位時間		
<b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span>	<b>【思判表】</b> <span style="float: right;">記</span>	<b>【主体態】</b> <span style="float: right;">記</span>
<b>【知技】</b> 単元の課題解決に迫る言語活動において、 <b>【知技】</b> を評価する場合、本単元で学習した言語材料にとどまらず、既習の言語材料も含めて、正しく活用している状況の評価します。		

「思考・判断・表現」は目的、場面、状況のある言語活動の中で評価されるため、はばプランⅡで示す単元の課題を設定した問題解決的な授業が不可欠です。

#### 「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・指導要領P157「2内容[第5学年及び第6学年]」の[知識・技能]における「(1)英語の特徴やきまりに関する事項」に記されている「音声」の特徴を捉えて話すことについては、それ自体を観点別評価とはしないが、ALTやデジタル教材を活用するなど、適切に指導することとします。

・外国語活動・外国語科では指導した結果として、慣れ親しんだり、できるようになったりしたことを評価するため、単元の後半に評価することが多くなります。



# 【中学校 外国語科】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>&lt;知識&gt; ○○について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; △△について○○を用いて、□□を～～する技能を身に付けている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>○○の理解 ○○の正しい活用</p> </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を～～している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【思判表】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>目的・場面・状況のある言語活動において、自分の思いや考えを適切に表現したり、理解したりしている状況</p> </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を～～しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【主体態】</b> <span style="float: right;">記</span></p> <p>他者へ配慮しながら、課題解決しようとする態度</p> </div>
<p>・「話すこと」について、音声の特徴を捉えて話していることについては、特定の単元等で扱うのではなく、「話すこと」の指導全体を通して適宜評価する。</p>	<p>・日常的な話題や社会的な話題について、目的、場面、状況のある言語活動において評価する。</p>	<p>・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元ではなく、年間を通じて評価する。</p>

※○○は言語材料、△△は事柄・話題、□□は内容、☆☆は目的

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

##### 課題提示型

- ◇単元の課題に出合う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

##### 課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。  
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

#### 【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。  
※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
- ※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

##### 単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

#### 3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
「試しの活動」において、生徒の学習状況を把握します。		
<b>単位時間</b> ○各単位時間で記録に残す評価を行うことはありません。 ○ <b>C</b> 教科書の活用については、「ねらい」によっては評価することもあります。		
A	B <b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span>	C <b>【知技】</b> <span style="float: right;">記</span> <b>【思判表】</b> <span style="float: right;">記</span> <b>【主体態】</b> <span style="float: right;">記</span>
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 <span style="float: right;">記</span>	【思判表】 <span style="float: right;">記</span>	【主体態】 <span style="float: right;">記</span>
<b>【知技】</b> 単元の課題解決に迫る言語活動において、【知技】を評価する場合、本単元で学習した言語材料にとどまらず、既習の言語材料も含めて、正しく活用している状況を評価します。		

「思考・判断・表現」は目的、場面、状況のある言語活動の中で評価されるため、はばプランⅡで示す単元の課題を設定した問題解決的な授業が不可欠です。

#### 「指導に生かす評価」 (学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況をみどり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す) = 記

・単元末における課題解決にせまる言語活動で、当該単元で学習する言語材料を用いないこともあるため、本単元に関わる言語材料は、基本的には「追究する過程」で評価します。  
・外国語科では指導した結果として、できるようになったことを評価するため、単元の後半に評価することが多くなります。

道徳科の評価における基本的な考え方

学習指導要領(特別の教科 道徳)より

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。  
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

- 数値による評価ではなく、**記述式**とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまり**を踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか**、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- 調査書(内申書)に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

はばたく群馬の指導プランⅡ  
単位時間の基本的な流れ

導入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時で扱う道徳的価値に関わる資料(アンケート結果、視聴覚教材等)を提示したり、話題(経験も含む)にしたりして気付きを共有させる。</li> <li>児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。</li> </ul> <p>【めあて】</p>
展開	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。</li> </ul> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。</li> <li>多面的・多角的に考えることのできる<b>中心発問</b>をする。</li> <li>中心発問に対する児童生徒の考えに対し<b>補助発問</b>をする。</li> </ul> <p>※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。</li> <li>児童生徒に考えたことを発表するよう促す。</li> <li>発表された様々な考えを受容する。</li> </ul>
終末	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。</li> </ul> <p>【振り返り】</p>

※学校や学年で評価の方法や評価の視点について共通理解を図ることが大切です。

評価の視点<例>

評価の視点

授業の「ねらい」は道徳性を養うことですが、評価するのは**学習状況**です。  
そこで、明確な指導観のもと、学習活動を構想し、児童生徒の学習状況を評価の視点とします。

学習状況の例

多面的・多角的な見方へと発展しているか

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。 など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。 など

評価のための方法<例>

**学習状況**を以下のような方法で見取ります。

「授業ごとの見取り」(記録に残し、蓄積する)

・児童生徒の学習状況を見取り、記録しておきます。

ノートやワークシートの記述

授業記録(発言・態度)エピソード記録

作文やレポート等

スピーチやプレゼンテーション等

聞き取り、インタビュー

児童生徒が行う自己評価や相互評価

「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」

- 年間や学期など一定の時間的なまとまりの中で評価します。
- 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、要録や通知表に記述します。

単元の指導計画における観点別評価の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>【知技①(概念的知識)】</b> ○○は、▲▲し、□□することで★★となっていくことを理解している。</p>	<p><b>【思判表①(課題の設定)】</b> ※単元の課題・個別の課題・新たな課題 ○○について、課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。</p>	<p><b>【主体態①(自分自身に関すること・主体性)】</b> 活動を通して、自分と○○とのかかわりを見直そうとしている。</p>
<p><b>【知技②(概念的知識)】</b> ○○の解決に向けて学んだことは、△△な面で自分の生活と深く関わっていることを理解している。</p>	<p><b>【思判表②(情報の収集)】</b> ○○の解決に必要な情報を手段を選択して、収集している。</p>	<p><b>【主体態②(他者とのかかわり・協働性)】</b> グループで協力したり、お世話になった方からの教えを生かしたりしながら、○○の解決に向けて協働して取り組もうとしている。</p>
<p><b>【知技③(技能)】</b> ○○の解決に向けて調査をしたり体験をしたりして収集した情報について、図や文章等でまとめる方法が身に付いている。</p>	<p><b>【思判表③(整理・分析)】</b> 収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら○○の解決に向けて考えている。</p>	<p><b>【主体態③(社会とのかかわり・粘り強い態度)】</b> 課題解決に向けた活動の状況を振り返り、諦めずに○○の解決に向けて取り組もうとしている。</p>
	<p><b>【思判表④(まとめ・表現)】</b> 伝える相手や目的に応じて、調べた○○や自分が考えた◇◇をまとめ、適切な方法で表現している。</p>	

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動

つかむ	<p><b>1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。</b> ①探究課題と出会う。 ◇共通体験活動を行う。 ◇専門家の話を聞く。 など ②単元の課題を把握する。 ◇気付きや疑問を出し合う。 ◇理想と現実を比べる。 など ③追究の見通しをもつ。 ◇どのようなことに取り組んでいくか、解決に向けた予想や仮説を立てる。 など</p>
追究する①②	<p><b>2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。</b> ①課題の設定 ◇追究の見通しを基に、自らが取り組む課題（個別課題）を設定する。 ◇何をどのように追究するか、具体的な見通しをもつ。 ②情報の収集 ◇設定した課題の解決に向けて、見通しを基に必要な情報を収集する。 ③整理・分析 ◇収集した情報や考えを整理・分析する。 ④まとめ・表現 ◇設定した課題に対する取組をまとめたり、実践したりし、新たな課題につなげる。  <b>3 新たな課題を見だし、継続して追究する。</b> ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現</p>
まとめる	<p><b>4 単元全体の学習を振り返る。</b> ◇単元全体を振り返り、自分の変化や成長を見つめ直す</p>

<例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p><b>【思判表①】</b> 単元の課題の設定</p>	<p><b>【主体態①】</b> 自分自身・主体性</p> <p><b>【主体態③】</b> 社会とのかかわり・粘り強い態度</p>
<p><b>【知技①】</b> 概念的知識</p> <p><b>【知技②】</b> 概念的知識</p> <p><b>【知技③】</b> 技能</p>	<p><b>【思判表①】</b> 個別の課題の設定</p> <p><b>【思判表②】</b> 情報の収集</p> <p><b>【思判表③】</b> 整理・分析</p> <p><b>【思判表④】</b> まとめ・表現</p> <p><b>【思判表①】</b> 新たな課題の設定</p>	<p><b>【主体態①】</b> 自分自身・主体性</p> <p><b>【主体態②】</b> 他者とのかかわり・協働性</p> <p><b>【主体態③】</b> 社会とのかかわり・粘り強い態度</p>
	<p><b>【思判表④】</b> まとめ・表現</p>	<p><b>【主体態①】</b> 自分自身・主体性</p>

記録に残す評価（通知表、指導要録）については、従来どおり、実施した「学習活動」「評価の観点」「評価」の3つの欄で構成し、その児童生徒のよさや成長の様子など、顕著な事項を文章で記述する。

## 学習過程の指導計画における観点別評価の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〇〇すること(他者との協働、社会参画、集団での役割等)の意義を理解している。</p> <p>□□について理解し、△△を身に付けている。</p> <p>話し合いによる課題の解決や、協働して実践することの意義の理解</p> <p>基本的な知識・技能 ・話し合いの進め方 ・意見の比べ方 ・合意形成の図り方 ・活動の方法 等</p>	<p>●●するために、問題を発見し、しながら合意形成を図り、■■して(～し合って)実践している。</p> <p>※「表現」は、言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える。</p> <p>問題の発見</p> <p>合意形成 ・他の意見のよさを生かす ・改善策を考える ・意見を組み合わせて考える 等</p> <p>実践の様子</p>	<p>◎◎するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、▲▲しようとしている。</p> <p>※自ら活動の調整を行い改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりしながら」という表現を用いる。</p> <p>見通し・振り返り</p> <p>身に付けた能力を生かして、よりよい生活を築こうとする態度</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 学習過程のつくり方

過程と基本的な学習活動
<p><b>1 問題を発見・確認する。</b></p> <p>◇問題を発見する。(計画委員会)</p> <p>◇議題を選定する。(計画委員会)</p> <p>◇議題を決定する。(学級全員)</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>◇活動計画を作成する。(計画委員会・提案者) ※計画委員会は、昼休みや放課後等に時間を見つけて行う。</p> <p>◇問題意識を高める。</p>
<p><b>2 解決方法等を話し合う。</b></p> <p>◇議題や話し合いの進め方を理解する。</p> <p>◇解決方法等を話し合う。</p> <p><b>3 解決方法を決定する。</b></p> <p>◇集団として合意形成する。</p>
<p><b>4 決めたことを実践する。</b></p> <p>◇合意形成したことを実践する。</p> <p><b>5 振り返る。</b></p> <p>◇一連の実践の成果や課題を振り返る。</p> <p><b>一連の活動の振り返り</b></p>

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p><b>【知技】</b> 基本的な知識・技能 ・話し合いの進め方 ・意見の比べ方 ・合意形成の図り方 ・活動の方法 等</p> <p><b>【評価の参考】</b> 輪番制の計画委員による活動計画書への記述内容 〈計画委員会活動計画書〉</p>	<p><b>【思判表】</b> 問題の発見</p> <p><b>【評価の参考】</b> 事前にかかせておいた自分の考え等 〈ノート等記述〉</p>	<p><b>【主体態】</b>見通し・振り返り</p> <p><b>【評価の参考】</b> 輪番制の計画委員会での準備の様子 〈観察〉</p>
	<p><b>【思判表】</b> 合意形成 ・他の意見のよさを生かす ・改善策を考える ・意見を組み合わせて考える 等</p> <p><b>【見取りのポイント】</b> 提案理由や話し合いのめあてに沿った発言や、他者の意見と比較し、よさを生かして折り合いをつけているか。 〈観察・ノート等記述〉</p>	
<p><b>【知技】</b> 話し合いによる課題の解決や、協働して実践することの意義の理解</p> <p><b>【見取りのポイント】</b> 合意形成や仲間と協力して実践することのよさを理解しているか。 〈ノート等記述〉</p>	<p><b>【思判表】</b> 実践の様子</p> <p><b>【評価の参考】</b> 仲間と協力して実践している様子など、行動として表れているものなども評価対象となる。 〈観察〉</p>	<p><b>【主体態】</b> 見通し・振り返り</p> <p><b>【主体態】</b> 身に付けた能力を生かして、よりよい生活を築こうとする態度</p> <p><b>【見取りのポイント】</b> 実践の様子から、自分のよさを生かして役割に取り組もうとしたり、友達と協働して取り組もうとしたりしているか。 〈観察・ノート等記述〉</p>

#### 評価の工夫について

- 活動の結果だけでなく、活動の過程における児童生徒の努力や意欲などを積極的に認め、本人に伝えたり全体に紹介したりするなどして、一人一人のよさや可能性を伸ばしていける指導を心がけましょう。
- すべての評価の観点について、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしましょう。また、「十分満足できる活動の状況」について学級会ノートを活用したり、顕著な事項を補助簿等に蓄積・記録したりしておくなど、効果的で効率的な評価となるよう工夫しましょう。

学習過程の指導計画における観点別評価の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〇〇すること(自己の生活上の課題、自己実現に必要なことについて話し合ったり実践したりすること)の意義を理解している。</p> <p>□□について理解し、△△を身に付けている。</p> <p>話し合いや実践活動における意義の理解</p> <p>基本的な知識・技能の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活上の課題の解決に関する知識・技能(2)</li> <li>自己実現を図るために必要なこと、行動の仕方に関する知識・技能(3)</li> </ul>	<p>●●するために、問題を確認し、■■しながら意志決定を図り、▲▲して(～し合っ)実践している。</p> <p>※「表現」は、言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える</p> <p>問題の確認</p> <p>意志決定</p> <p>実践の様子</p>	<p>◎◎するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、◇◇しようとしている。</p> <p>※自ら活動の調整を行い改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりしながら」という表現を用いる。</p> <p>見通し・振り返り</p> <p>身に付けた能力を生かして、よりよく生きていこうとする態度</p>

はばたく群馬の指導プランⅡ 学習過程のつくり方

過程と基本的な学習活動

事前の活動	<p>1 問題を発見・確認する。</p> <p>◇題材を設定する。(教師)</p> <p>◇問題を確認する。</p> <p>◇共通の課題を設定する。</p> <p>【共通の課題】</p> <p>◇活動計画を作成する。</p> <p>◇問題意識を高める。</p>
-------	--

本時の活動	<p>2 解決方法等を話し合う。</p> <p>◇課題を把握する。</p> <p>◇原因を追求する。</p> <p>◇解決方法を見付ける。</p> <p>3 解決方法を決定する。</p> <p>◇個人の意味決定をする。</p>
-------	---

事後の活動	<p>4 決めたことを実践する。</p> <p>◇意思決定したことを実践する。</p> <p>5 振り返る。</p> <p>◇実践を定期的に振り返る。</p> <p>一連の活動の振り返り</p>
-------	---

〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p>問題の確認</p> <p>【見取りのポイント】 問題に対する自分の現状を考え、問題意識をもっているか。等 〈ノート等記述〉</p>	<p>見通し・振り返り</p> <p>【評価の参考】 事前の活動におけるアンケート、実践の様子、実践後の振り返り等 〈事前アンケート・ノート等記述・観察〉</p>
<p>話し合いや実践活動における意義の理解</p> <p>【見取りのポイント】 自己の生活上の課題を解決したり、よりよい自分へ向けて努力したりするために話し合ったり、実践したりすることの意義を理解しているか。等 〈ノート等記述〉</p>	<p>意思決定</p> <p>【見取りのポイント】 話し合いで出された考えを踏まえ、自分の課題にあった具体的な実践方法やめあてを決めているか。等 〈ノート等記述・発言・観察〉</p>	
<p>基本的な知識・技能の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活上の課題の解決に関する知識・技能(2)</li> <li>自己実現を図るために必要なこと、行動の仕方に関する知識・技能(3)</li> </ul> <p>【見取りのポイント】 生活や学習に必要な知識・技能や自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けているか。等 〈ノート等記述・観察〉</p>	<p>実践の様子</p> <p>【見取りのポイント】 意思決定したことを実践しているか。等 〈学習カード等の自己評価・観察〉</p>	<p>見通し・振り返り</p> <p>身に付けた能力を生かして、よりよく生きていこうとする態度</p> <p>【見取りのポイント】 意思決定したことを、見通しをもって実践したり、粘り強く活動したりしているか。等 〈学習カード等の自己評価・観察〉</p>

評価の工夫について

○学級活動(2)(3)においては、「現在の生活上の課題」「現在及び将来を見通した生活や学習の課題」という違いはありますが、基本的な学習過程が同じであることを踏まえ、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしましょう。

○実践の振り返り際には、学習カードに担任や家庭からのコメント欄を設けるなどして、実践の過程における生徒の努力や意欲などを賞賛するなど、一人一人のよさや可能性を認め、伸ばす指導を心がけましょう。